

【北海道経済産業局長顕彰】

《地域でがんばる中小企業・小規模事業者》

○株式会社ADM

北海道伊達市北稀府99番地の5

代表取締役 仁村 優治

<http://kkadm.web.fc2.com/>

(会社概要)

昭和63年に伊達市で現代表の仁村優治氏が土木工事建設業を創業。当初は建設業メインで稼働していたが、現在は大型仮設上屋の製造・リース・販売に特化している。ゼネコンや建築資材リース会社等を通じて、大型建造物の建設・解体、最終処分場等の分野に対して製品を提供している。

(選定理由)

株式会社ADMは、独自の開発商品と施工技術にこだわり続け、「大型仮設事業のパイオニア」を目指している。平成18年度に新連携事業の認定を受け開発した大型高気密仮設上屋は建造物の建設や解体等の作業現場における環境悪化を防止し、周辺住民への環境に配慮ができる製品となっている。現在では、震災被災地において導入されており復旧作業の一翼を担っている。

ものづくり

中小企業者



○株式会社北国生活社

北海道札幌市西区西町北6丁目1-1

代表取締役 内藤 大輔

<http://www.nlife.jp/>

(会社概要)

北海道の素材を使った化粧品や健康食品、原材料を扱う商社。取扱う商品は400種類にも及び全国の百貨店や専門店約100社に展開。こだわりの道産商品を扱うことで売上増加につなげている。

(選定理由)

株式会社北国生活社は、北海道の豊富な機能性素材を活用して北海道内では化粧品・健康食品メーカーが増えているが、経営基盤の脆弱な中小メーカーがほとんどであり、販路開拓が大きな課題となっていた。同社がこうした企業の商品の営業拠点としてワンストップでPR・販売することで道内取引企業の売上増加に大きく寄与している。

サービス・小売等

中小企業者



○株式会社北の達人コーポレーション

北海道札幌市北区北7条西1丁目1-2

代表取締役 木下 勝寿

<http://www.kitanotatsujin.com/index.php>

(会社概要)

平成12年ウェブサイト「北海道・シーおー・じえいぴー」を立ち上げ、北海道特産食品のインターネット販売を開始。平成14年当社設立。平成21年「株式会社北の達人コーポレーション」に商号変更。平成24年札幌証券取引所アンビシャス市場に上場(現在は本則市場)。北海道の素材を中心とした健康食品、化粧品、雑貨の企画、開発、製造、販売のECサイトの運営を行っている。平成26年2月「中小企業IT経営力大賞2014」にて大賞(経済産業大臣賞)を受賞。

(選定理由)

「新卒採用の新入社員は社内の誰よりもお客さま目線で物事を考えることができる」との考えから、新入社員の視点で新商品開発や各種プロセスの改善を実施。また、女性のライフスタイルを尊重しビジネスキャリアを継続できるワークスタイルを確立。こうした社員の力を最大限に発揮する社風に努めた結果、北海道の優良製品の全国発信に成功し売上・利益ともに急激に拡大、株式上場にまで至った。

人材活用

中小企業者



○株式会社ザ・グラス・スタジオ

北海道小樽市最上2丁目16-16

代表取締役 浅原 千代治

<http://glasstudio-otaru.com/>

(会社概要)

昭和54年にガラス工芸作家であった浅原氏が、若手職人とともに小樽市にガラス工房を開設。小樽の海をイメージした「小樽ブルー」シリーズなどのガラス工芸品を制作・販売しているほか、手作りのガラス工芸品を制作できる体験事業も国内外の観光客に人気となっている。

(選定理由)

株式会社ザ・グラス・スタジオの浅原代表取締役は、作家(デザイナー)と職人の分業によるガラスづくりが主流だった時代に、作家が自ら作品をデザインし制作する「スタジオ・グラス運動」を主導。また、小樽市に自らの工房を開設して、通常は公開しない自らの吹きガラス技法をオープンにし、観光客等向けの制作体験事業を行うなど、新たなガラス工芸分野を開拓。小樽ガラスのブランド形成の牽引役となった。また、諸外国の大学等にてガラス工芸技術の指導を通じて海外での人材育成に貢献したほか、米国に工房を開設して日本のガラス工芸品の認知度向上にも取り組んでいる。

ものづくり

小規模事業者



○有限会社植物育種研究所

北海道夕張郡栗山町中央2丁目45

代表取締役 岡本 大作

<http://ikushu.com/>

(会社概要)

独自の育種技術を用いた種苗の開発・販売を行っており、種子は北海道をはじめ、米国、ヨーロッパなど海外にも販売している。また、同社が開発した血流改善効果を持つ健康タマネギ「さらさらレッド」は、町内の生産農家により契約栽培され、独自の販路で全国展開している。

(選定理由)

有限会社植物育種研究所は、同社が開発した健康タマネギ「さらさらレッド」を栗山町の地域ブランドとして育てるため、町内の生産農家や商工団体、町役場が一丸となって生産、加工、販売、プロモーションに関する取組を実施。特に、①系統物流に依存しない独自の販売網確立、②町内生産農家らの全面協力による生産規模拡大、③町役場による販売促進支援など、町をあげて取り組む「農商工連携」のモデルといえる。

地域活性化

小規模事業者



○シンセメック株式会社

北海道石狩市新港西2丁目788-7

代表取締役 松本 英二

<http://www.synthemec.co.jp/>

(会社概要)

オーダーメイドで、加工機・組立機・計測機・検査機などの自動省力化設備を開発・製造するほか、多品種小ロットの精密加工部品製造を手がける。顧客は、自動車・住宅・精密・電気電子と多岐にわたる。近年は食品加工機械分野に進出。2013年8月フードマシンセンターを立ち上げた。

(選定理由)

シンセメック株式会社は、小回りのきく規模で、顧客のニーズを汲み取り、アイデア→設計→部品製作→組立→制御→納入/アフターケアまでを1社ワンストップで対応し、顧客の相談にきめ細かく応えられる強みがある。地域の産学官連携プロジェクトに参加したことをきっかけに食品加工機械分野に進出し、地域の「食分野の高付加価値化」に貢献することが期待される。

ものづくり

中小企業者



○株式会社ソルトワークス

北海道札幌市中央区南1条西2丁目5南一条Kビル9階
代表取締役 和田 誠
<http://saltworks.jp/>

(会社概要)

株式会社ソルトワークスは、コンピューターテクノロジーやデザインを駆使しながら自分達が生み出すアイデアをカタチにするクリエイター集団で、Webサービスの企画・制作などが主業務。開発者であるクリエイターの能力を最大限発揮させ、自社開発サービスを主体とした経営を行っている。

(選定理由)

株式会社ソルトワークスは、社員の創造性・モチベーションを向上させる取組として、「失恋休暇」や「ニックネーム制度」等30におよぶオリジナル社内ルールの制定や主婦が働きやすい環境を整備。また、新しい製品を生み出すためのバトルボンバー(社内アイデアソン)により、156もの新サービス・新商品として生み出すなど社員の活力向上により設立以来大きく売上げを伸ばしている。

人材活用

中小企業者



○株式会社ほんま

北海道札幌市豊平区月寒東2条3丁目2番1号
代表取締役 本間 幹英
<http://www.e-honma.co.jp/>

(会社概要)

創業100年を超える老舗の菓子製造販売企業。銘菓「月寒あんぱん」はロングセラーの定番菓子として北海道民に定着。近年はその伝統の味を守りつつ北海道産食材を使った新しい和洋菓子も積極的に開発し、自社直営店舗の展開にも力を入れている。

(選定理由)

株式会社ほんまは、伝統の味を大切にしつつ、低カロリーでヘルシーな新商品開発を進め、女性顧客を中心に新たなマーケットを開拓している。また、北海道ならではの食材の商品化にも熱心に取り組んでおり、海外市場も展望しつつ新工場を建設するなど、今後さらなる飛躍が期待される先である。

サービス・小売等

中小企業者



○株式会社丸ヨ吉住商店

北海道雨竜郡沼田町南1条3丁目5番1号
代表取締役 吉住 淳男
<http://numasyou.web.fc2.com/b3/yoshizumisyouuten.html>

(会社概要)

大正13年創業以来、雨竜郡沼田町にて米穀雑穀集荷販売業を営んでいる。近年、沼田町のブランド米である「雪中米」の海外販路開拓に取り組み、道内で初めて本格的に米穀の輸出(台湾)を実現。また、同社は地域活性化のため各種事業に取り組み、地域発展に寄与している。

(選定理由)

株式会社丸ヨ吉住商店は、沼田町の特産品である「雪中米」の海外への販売を手がけ、北海道で初めて本格的に米穀の輸出を実現した。その実績を生かして、沼田町、地域の事業者及び農業者が有機的に連携して取り組んでいる「沼田ブランド商品の開発」及び「海外展開事業」について、統括事業者として積極的に取り組んでいる。

地域活性化

中小企業者



○丸和信和建設株式会社

北海道標津郡標津町字川北63-5
代表取締役 田村 正範
<http://www.shiretoko-shs.jp/shinwa/>

(会社概要)

昭和48年に信和建設を創業。昭和52年に法人化し、丸和信和建設株式会社を設立した。地元での公共事業や民間工事・住宅の建設などを全般的に行っている。平成21年から地域資源開発部(知床標津マルワ食品)を社内に創設し、異業種分野への事業進出を果たしている。

(選定理由)

丸和信和建設株式会社は、地元標津町産のブナサケ(産卵後のサケ)を使い、鯉節の伝統技法「手火山造り」の技術を応用し、独特な旨みの鮭節を開発した。(平成21年7月 地域産業資源活用事業計画認定)
原材料から製造・販売すべてが標津町産であり、役場や漁業協同組合とも連携し、地域ぐるみの活性化策として取り組んでいる。

地域活性化

小規模事業者

手火山造り



鮭節「華ふぶき」



○株式会社室蘭うずら園

北海道室蘭市石川町282-5
代表取締役 三浦 忠雄
<http://www.uzura.co.jp/>

(会社概要)

昭和57年の会社設立以来、うずらのヒナの孵化・育成・生産・加工・販売の一貫経営を行ってきた結果、病原菌の侵入がなくワクチンや薬を一切使用しない無投薬飼育を確立した。平成20年に新たな取り組みとして、飼料に有用微生物配合飼料を投入することで、より臭みのないうずらの卵を生産している。

(選定理由)

株式会社室蘭うずら園は、北海道で唯一うずらの孵化と飼育を行っており、ワクチンや薬を一切使わず飼料に改良を加えた独自技術により、うずら独特の臭みのない卵を作ることに成功。その卵を使い、地元室蘭を中心とした北海道産原料にこだわった「室蘭うずらのプリン」を開発した。(平成22年2月 地域産業資源活用事業計画認定)
室蘭市特産のスイーツとして業界団体との連携により地域活性化を図っている。

地域活性化

小規模事業者

室蘭うずらのプリン



○株式会社メデック

北海道函館市鈴蘭丘町3番地133
代表取締役 漆崎 照政
<http://www.medec-ltd.co.jp/>

(会社概要)

装置エンジニアリング、部品加工、アプリケーション開発及び各種機器販売を行う総合エンジニアリング会社。半導体製造装置や省力化機械の開発・製造を行い、国内外に販売している。

(選定理由)

株式会社メデックは、同社社長が機械設計と商社での勤務経験を有することもあり、技術や製品の「自前主義」にこだわることなく、様々な企業との連携により顧客のニーズに応えている。特定の技術分野・製造工程向けに特化するリスクを避け、「商機に賢く」事業を展開している。最近では、画像処理技術を活かした食品・農産物等の検査・選別装置に進出している。

ものづくり

中小企業者

